

ひなにんぎょう
雛人形

3月3日の上巳じょうしの節供は、雛祭りや女の子の節供と呼ばれています。現在も広く知られている行事ですが、かつての大和市ではどのような風習があったのでしょうか。

1. 大和の雛祭り

女の子のいる家では雛人形を飾る風習がありました。女の子が生まれると、嫁の実家からは内裏雛だいりびなが、親戚や仲人、近所の人からは、高砂たかさごなどほかの人形が贈られました。

雛人形は2月中旬頃から飾り始め、3月3日を過ぎるとなるべく早く片付けました。雛人形を早く片付けないと、嫁入りが遅くなるといわれていたためです。

節供の日には、赤・白・青に色付けした菱餅ひしもちを作って神棚に供えます。菱餅は、深見では1日に、下草柳では2日に餅つきをして作りました。親戚や近所の人には、雛人形を贈ってもらったお返しに、白酒しろざけやハマグリのお吸い物、赤飯といった御馳走を振る舞いました。御馳走を振る舞わない地域では、菱餅や白酒などを配って贈り物のお返しとしていました。

2. 嫁の初節供

嫁が嫁とついで最初の年は嫁の初節供といい、節供の日に里帰りをしました。上福田では、1臼うす（米2升しょう分）で1枚のノシ餅を3枚作り、嫁の実家に行って両親に贈ったといいます。このノシ餅も、菱餅と同じく赤・白・青に色付けしました。



新女兒のお祝い（下鶴間）

（大和市『大和市文化財調査報告書 第13集』

1983年、120頁）

3. 雛人形の飾り方

郷土民家園での雛人形展示は、関東で一般的な飾り方を参考にしています。ここでは、各段に飾られている人形や小物類を簡単に紹介します。

- 1段目：^{だいりびな}内裏雛……………^{おびな}男雛と^{めびな}女雛の2体1組を合わせて内裏雛と呼びます。
- 2段目：^{さんにんかんじょ}三人官女……………宮中に使える官女（女官）の人形です。
- 3段目：^{ごにんばやし}五人囃子……………^{のうがく}能楽の^{はやしかた}囃子方と^{じうたい}地謡の人形です。
- 4段目：^{ずいじん}隨身……………剣を帯び、弓矢を持った武官姿の2体1組の人形です。
- 5段目：^{しちょう}仕丁……………3体1組の従者の人形です。
- 6段目：^{よめい}嫁入り道具……………^{たんす}箆笥・^{ながもち}長持・^{ちゃどうぐ}茶道具などの道具が配置されます。
- 7段目：^{おこしい}御輿入れ道具……………^{かご}駕籠・^{じゅうばこ}重箱・^{ぎっしや}牛車で嫁入り行列を表しています。



郷土民家園での雛人形展示